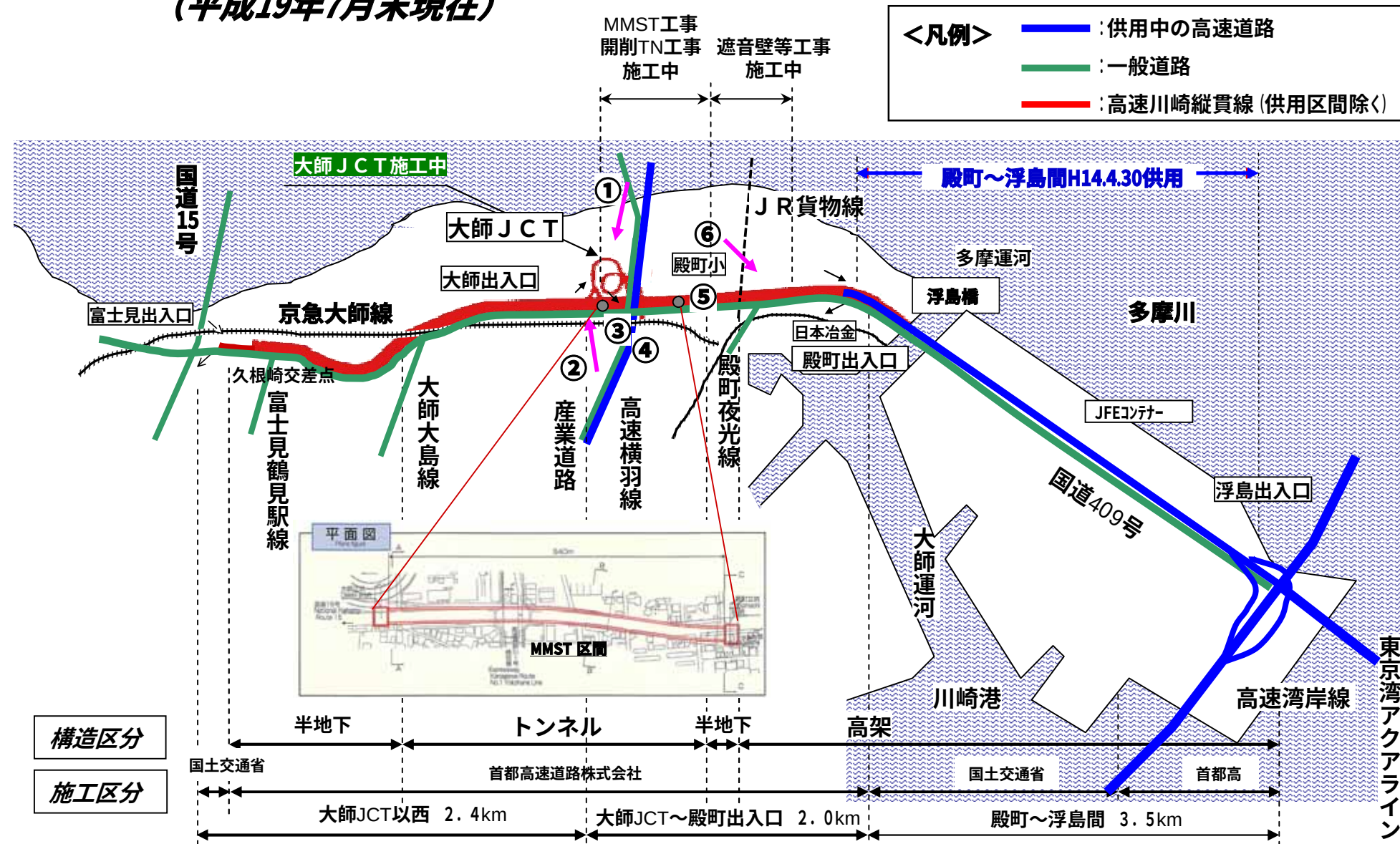


高速川崎縦貫線進捗状況図

(平成19年7月末現在)



⑥殿町3丁目付近



⑤開削トンネル躯体・仮設状況 (殿町)



④産業道路部基礎工事



①大師JCT内全景 (施工中)



②開削トンネル覆工下での掘削・仮設 (大師)

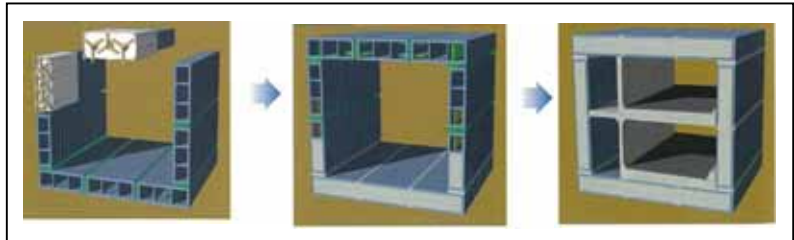


③ MMST内部掘削 (大師側)

川崎縦貫線の工期延伸理由

- 川崎縦貫線の本線トンネルは、沿道の制約条件から、新たに開発した MMST 工法 (マルチマイクロシールドトンネル工法) を採用しており、「川崎縦貫線における MMST 工法の設計施工に関する調査研究委員会」において、トンネルの専門家による意見を踏まえ、技術開発やその検証、工程に対する影響検討などを行いながら工事を進めてきたところです。

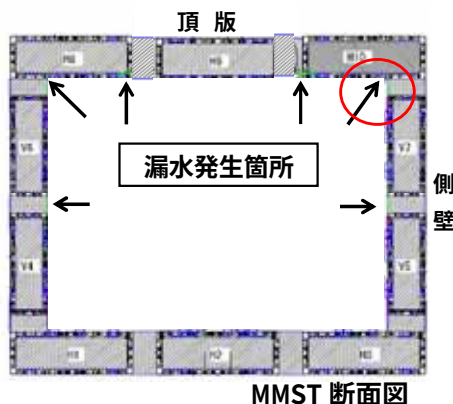
施工ステップのイメージ



- 協定締結時点 (平成18年3月) では、平成20年度の完成を予定していましたが、協定締結以降の工事において、新たに漏水の発生、沿道環境に配慮した作業時間の変更等が必要となり、予定通りの完成が困難な見込みとなったところです。
- これを受けて、「川崎縦貫線 MMST トンネルの漏水対策特別調査委員会」を設置し、漏水の原因及び対策についての検証を行うとともに全体工程の精査及び工程短縮の検討を実施してきましたが、完成が2年遅れる見込みとなりました。

《工期延伸理由》

- 想定以上の漏水の発生への対応
⇒ 外殻表面の処理、止水工など
- 地元沿道環境への配慮 (施工時間・施工方法の見直し)
⇒ 施工時間の変更 (昼夜連続→昼夜)、施工方法の変更



漏水の状況

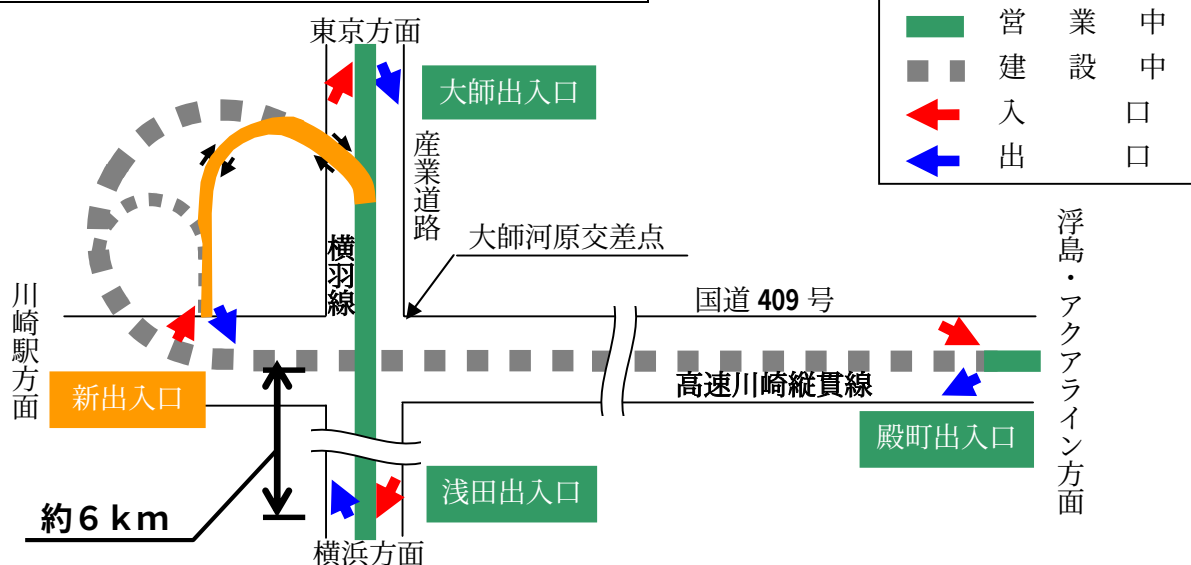
- トンネルの専門家の意見を頂きつつ、対策を進めるとともに、工事の遅れを短縮できるよう努めて参ります。
- なお、大師ジャンクション横浜方向出入口については、協定どおり平成20年度に開通する予定です。

川崎縦貫線の今後の整備について

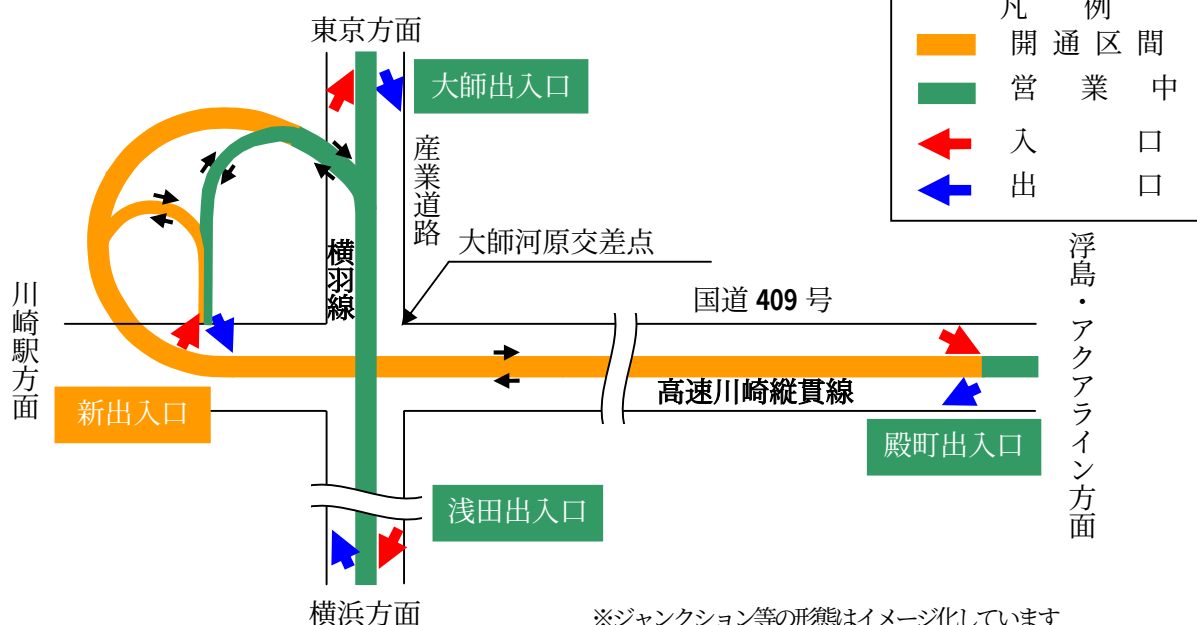
- 川崎縦貫線については、本線の開通が2年遅れることとなりますが、お客様の利便性が少しでも早くよくなるよう、大師JCTに整備予定の横羽線横浜方向の出入口については、予定通り平成20年度に開通する予定です。

<川崎縦貫線の整備ステップ>

H20 年度末～（横浜方面出入口開通後）



H22 年度末～（川崎縦貫線本線[殿町～大師]開通後）



※ジャンクション等の形態はイメージ化しています

<大師JCT横羽線横浜方向出入口の整備効果>

・利便性の向上

川崎市臨海部と横浜市中心部とのアクセスにおいて、大師JCT横羽線横浜方向出入口を利用することにより、街路を走行する距離が約6km減るため、京浜急行大師線川崎大師駅とみなとみらい間の所要時間が30分から20分へ10分短縮します。

これにより、川崎市臨海部と横浜市中心部とのアクセス機能が強化され、利便性が向上します。

・渋滞緩和

現在、横羽線浅田出入口をご利用いただいている平日1日あたり約22000台の自動車交通が、横浜方向出入口の整備により分散し、約4000台（約2割）の減少が見込まれます。

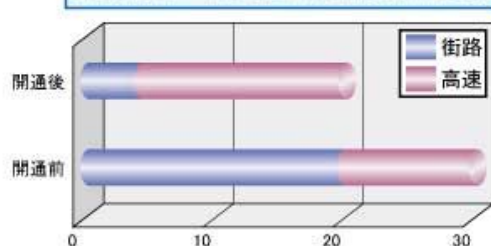
特に、浅田出口では、分散により産業道路の浅田交差点を先頭に横羽線本線まで影響することがある渋滞が大幅に緩和します。

また、それに伴い周辺の一般道路でも交通量が減少し、流れがスムーズになることが期待できます。

川崎大師駅～みなとみらい間のアクセスが向上

開通後は30分から20分に短縮できます。

川崎大師駅～みなとみらい間の所要時間の変化



横羽線浅田出口の渋滞が緩和

浅田出口に集中する交通が分散されます。

